

気をつけて欲しいことメモ

テクニカルドキュメンテーションII

2025.04.25 Kenichi Wakabayashi

「〇〇することができる」構文を多用しない

この書き方は、冗長であり、受動態のように弱い印象を与える。能動態で表現することで、より力強く明確な印象を与えることができます。←これ
能動態で表現することで、より力強く明確な印象を与えます。

絶対使うなともいいません、文脈によっては適切な場合もあります。

ブラウザ標準の翻訳機能を使わない

翻訳を使うなどとはいいませんが、必ず元の英語を見て翻訳してください。最初から翻訳結果だけを見てしまうと、他のエンジニアと言葉が通じなくなる、正しい言葉を使えなくなるなどの問題が起こります。

ブラウザ標準の翻訳機能の精度がそれほど高くないことも気にしておいてください。

ひとつの文（センテンス）を短くする

文章を書いていると、ひとつの文章（始まりから「。」まで）が長くなることがあります。文章が長くなった時は、ひとつの文章の中に複数のことが書かれていることがあります、理解が難しくなります。

ひとつの文章で言いたいことはひとつに絞り、センテンスを短くすることで、読みやすく理解しやすくなります。

まずは英語で考える

英語に苦手意識があると、日本語で書いて英語に翻訳されます。しかし、あなたが書いた日本語が必ず正しい英語になるとは限らないことに注意してください。

翻訳結果が正しい英語かどうかを判断するために、まずは一度英語で考えてみてください。

どんな英語がでてくるかを考えてみて、翻訳結果がそこから大きく外れていないかどうかである程度の判断ができます。

正しい日本語を使う

日本語で書いてから英語に翻訳する場合、当たり前ですが元になる日本語の文章が正しくなければ正しい英語は出力されません。

私たちが普段使っている日本語は文章としてただしくないことが多くあります。よくあるのは主語の抜け。てにをはの使い方によっても英語の翻訳結果が変わります。

英語を書く以上に丁寧に日本語を書かなければならないことに注意してください。